

2024,04,26

校章「みつばち」に込められた思いから

山形市立第七小学校 校長 原田 健男

校庭の桜の緑が勢いを増すのと同時に、様々な植物が次々と綺麗な花を咲かせています。

学校創立90周年を迎える今年度、山形市立第七小学校は57名の1年生を迎え、全校児童は392名でスタートしました。始業式、入学式を経て約3週間が経ちました。子ども達は、昨年度までの感染症の影響もなく、元気に過ごしています。各教室では新しいインクの匂いの教科書とICT機器を使い、新たな学びを積み上げています。

さて、皆様ご承知の通り、本校の校章は「みつばち」をモチーフにしています。校章には、学校の創立当時の理念や意気が反映されています。過去の資料を紐解くと「みつばち」は「様々な能力が高く、まじめで勤勉」「仲間を大切に、没頭してやり抜く」といった集団生活の基盤を備えており、「新しい学校に求める教育の大切さ」を考えられていたことがわかります。

校章が学校創立当時から続く恒久的な理念だとすれば、学校教育目標は目標とする子どもの姿と言えます。本校では、学校教育目標を「みつばち」に合わせ、目指す子どもの姿としています。教育活動を通し、個が尊重される教育活動を基盤とし、予測困難な時代を生き抜く力の基礎を育み、主体的に学習し、生き生きと生活している姿をめざし、誰もが「七小、いいね！」を感じることでできる瞬間を増やしてまいります。

このような子どもの姿を引き出すために、私達大人がまずやらなければならないことは「子ども理解」だと考えています。子ども達は日々成長し、変容しています。それらを日々、理解しようと努めることが教育の原点であり、子どもを理解することに完成はありません。そこで、ぜひ子どもの様子を、学級担任と日々共有を図っていただきたいのです。家庭での細かな変化を担当に伝えていただきたいですし、学校側からもお知らせしてまいります。

こうした状況をご理解いただくことと併せて、ご家族の皆様にお願ひがあります。子ども達の生活習慣を整え、学校で十分に活動できる素地を作っていただきたいということです。現在、欠席児童は少なく、元気よく生活している子ども達の姿を見て、保護者、ご家族の皆様のおかげと感じています。そのうえで確認させていただきたいのが、学校での活動は、集団生活の中で、自己を大切にしながら、相手のことも尊重する。そして、自己も集団も、その質をレベルアップさせていく、時には「がまん」を学ぶ。そんな場面も必ずあるということです。場合によっては、保護者の皆様には不安や不満を感じさせる場面もあるかもしれません。そんな場合でも、子どもの成長を願う気持ちは学校も皆様と変わるものではありませんので、本音で話し合うことを通して解決・改善を図っていければと考えています。

現在、社会問題となっている「いじめ」に関しても、資料を添付させていただきました。資料には、仮に、お子さんが仲良しの友達だからと、肩を組んで下校する場面があったとし、帰宅後、相手の友達が「学校帰り、肩を組まれて嫌な思いをした。」という案件が生じれば、学校では「いじめ」の可能性のある出来事として、保護者の方々からのご協力いただきながら、調査を始めなければならない旨の記載があります。子ども達にそんなつもりはなくても、被害者と加害者の関係が生じ、「なぜ、この手順にそわなければならないのか。」を考える時もあります。が、根本にあるものは、子ども達の「命を守るため」だと思っています。

ぜひ、この1年、学校と家庭・地域の三者が「すべての子ども達のため」に同じ方向に向かって歩いていけるよう、お願い申し上げます。